

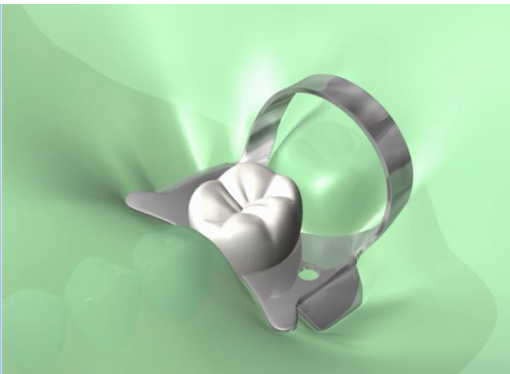
# ラバーダムについて

## 10年後の歯の健康のために

みなさんはラバーダムについてご存知でしょうか。

ラバーダムとは治療中の歯以外の歯やその他をゴム製シートでカバーするものです。

言われてもピンとこないかもしれません。実際にはこのような形です。



ラバーダムを使用することで様々な利点があります。

- ① 唾液の侵入を防止。
- ② 視野の確保。
- ③ 器具の落下防止。

等、利点があります。

逆に欠点としては、「不快に感じるのではないか」、「面倒である」、「コストがかかる」等があります。

一点目については、イメージとは違い、装着すると患者さんはむしろ楽なことが多いのです。

残り二つは治療をする側の理由です。

ラバーダムは保険点数が設定されていません。

したがって時間、器材のコストは歯科医院で負担することになります。そのため、業界としてラバーダムを行わない、もしくは保険外治療では行う等といった現状があります。

利点、欠点について挙げましたが、特に①の「唾液の侵入を防ぐ」点が、治療を行う上で非常に有益です。

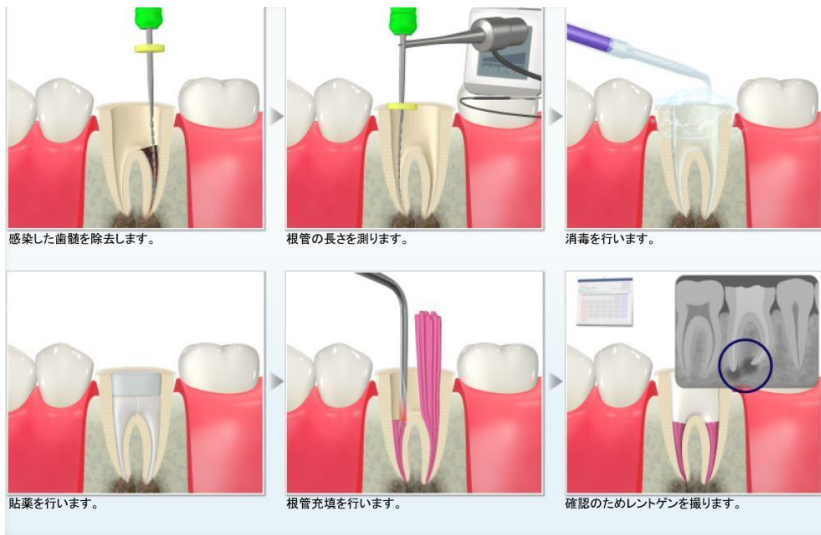
詰め物を埋める、被せ物を接着する際、水分の存在は接着不良を起こす原因となります。

ラバーダムをすることで、水の混入を防ぎ、より取れにくい確実な接着をすることができます。

ただし、埋めたり被せたりする場合、ラバーダムなしで行わなくてはならない場合もあり、ケースによって使い分ける形になります。



特に、ラバーダムが力を発揮するのは「神経、根の治療」です。

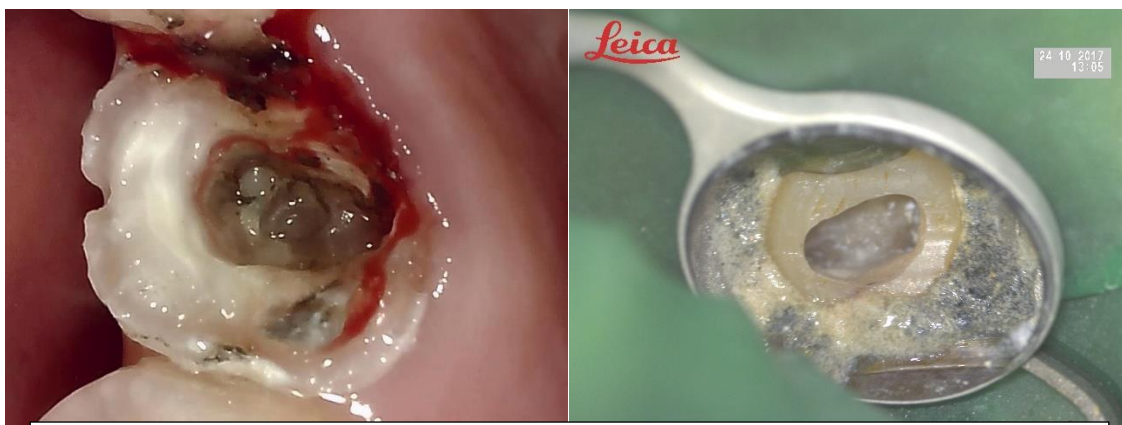


上の図のように根の内部の消毒をするのが、「**神経、根の治療**」です。

この際にも唾液が邪魔になります。唾液中には健康な方でも非常に多くの細菌が存在します。これらはお口の中の常在菌で普段悪さはしません。

しかし、根の内部の消毒をする際はできる限り無菌状態に近づけるのが治療の目標になります。そこに唾液の混入にしてしまうと、唾液中の細菌が内部に入り込んでしまうのです。

さらに悪いことに根の内部には色々なタイプの細菌が増えてしまい、根の治療が非常に治りにくく、「難治化」してしまうのです。



ひどい虫歯の場合は虫歯除去後、隔壁を作り、ラバーダムを装着します。

実は、ラバーダムを行わなくても根の症状は一時的には治ったようになります。

しかし、根の治療の結果は5年後、10年後良好に推移して、初めてわかるのです。

ただでさえ、難しい根の治療の成功率を上げるためにはラバーダムは不可欠です。

ごとう歯科では「神経、根の治療」の際、保険治療、保険外治療に関わらず、100%

ラバーダムを行わせていただいています。

将来のご自身の歯、豊かな生活のために、ぜひラバーダムでの治療を行いましょう。